



アムステルダムの運河

13世紀、人々がアムステル川の河口近くにダムをつくり暮らし始めたのが、オランダの首都アムステルダムの始まりとされています。

総延長約75kmにわたる165の運河を抱え、「水の都」と称されるアムステルダムは、日本と同様に水害に悩まされながらも、その運河を活かした貿易で、全盛期には世界中の情報と物資が集まる世界一の港町として貿易・経済の中心を担っていました。

17世紀に建設されたアムステルダムのシングルの運河網は、世界遺産に登録されています。



世界の地域から アムステルダム（オランダ）



アムステルダム中央駅

アムステルダムの玄関口であるアムステルダム中央駅は、オランダの有名建築家であるペトルス・カイパースがその建築を手がけ、1889年に完成しました。川に浮かぶ3つの人工島の上に、軟弱な地盤を強化して建物を支える9,000弱の木杭を基礎に建設されています。そのゴシック様式とルネサンス様式を融合させた特徴的なデザインにより、ヨーロッパでもっともモダンで利用者の多い駅の1つと言われており、2006年には東京駅との姉妹駅になっています。